

## 巻頭挨拶 経済学部設置を記念して

商経学会長 山本 政一  
商学部長

平成5年（1993年）4月1日をもって商学部経済学科が分離独立（改組転換）して経済学部となり、昼間主コースと夜間主コースを擁するユニークな新学部が誕生したことは、まことに喜ばしいことでもあります。文部省の認可を得るまでの道程が決して平坦なものではなかっただけに、正式認可の喜びもまたひとしおであります。

商学部、経営学部に加えて経済学部という文系三学部が揃ったことで、これまで以上に専門的学問研究の向上と教育上の効果がみられることになると思います。商経学会については当分の間は分離することなく、これまでどおり一体のかたちで運営され、学会誌の商経論叢についても従来の要領を踏襲して発刊することを商経学会で合意しています。学会メンバー各位の相つぐ投稿を期待しております。

商経学会の今後の活性化のために、できれば商経論叢掲載論文をめぐる研究報告会の定期的開催などがあってよいと考えます。大学の自己点検が問われている折でもあり、お互いの一層の切磋琢磨の機会を商経学会が用意することは有意義であるといえましょう。学会メンバー各位のご賛同が得られれば幸せです。なお、この機会に付言しておきたいことは現行の大学院経済学研究科の将来についてであります。現在、収容定員20名に対して在學生は27名にのぼっており、盛況です。経済学部が設置されたことでもあり、また文部省に申し出た文章の中に示しておりますように、経済学部認可設置のあと、残る商学部の発展の方向性については大学院商学研究科づくりへ向けての努力が不可欠となっています。幸い平成5年度の学内予算で商学研究科推進活動費が認められており、学内の順を待って正式準備の運びとなるはずであります。商学研究科の母体となる商学部はもとよりですが経済学部各位の後押しを期待してやみません。

経済学部発足の記念すべき時にあたりまして一言ご挨拶を申し上げた次第です。

平成5年8月31日